平新報

發行日 毎月三回 五ノ日發行
編輯兼發行印刷人 山野邊庄吉
福島縣平町二丁目二
發行所 平新報社
廣告料 五號十二字詰一行 一回五十錢 場所指定倍增
一部送料 五 定價金十錢 匣

各學校に於ける新聞記者志願の激增

進んで地方紙を開發せよ

早大新聞研究會員 齋藤昌武

「新しいことを知りたい」出來ごとを知りたいこうした人間の社會に對する要求は、何時の時代、何處の國の人たるを問はず、社會生活をなす人間の必然性の表れとして、それが古い時代いまだ交通開けぬ過去の時代にあつては尚更この要求が大きかつたらう。昔新聞記者と云へばつまらぬ「ゆすりや」種さがし位のいたずらものに考へられて新聞紙が**金持や政治家**の單なる意見發表の形にはめられて、作られてから今日まで新聞紙は五十年と云ふ、古い歷史を數ふるまでに、その間先輩の偉大な力に依つて**報導機關、營利事業**としての社會上重要な今日を形成するに至つたわけである。

ある記者の計算に依ると我が國でこの新聞事業に從事してゐる人が、十五萬人あると云つてゐる、そしてそれは僧侶、小學教員の各十五萬人と同じく其の數に於ても、天下を三分した意味の**文化事業**の一面を保つまでに至つた。こゝに於て現代新聞紙がその優劣の如何に關せず、新聞社と云ふ組織について見ても又、これを要求する社會から見ても、二方面の重要な役割を演んずるに至つて、これが益々研究され、論議され「**社會生活の羅針**」として社會より歡迎され一の社會機關として開發せしめられつゝあるわけである。こゝに於てか一層、優良記者養成が大に叫ばれて行くわけである、且つて**勝田前文相**は全國の師範校に新聞科を設置し斯道開發の資に供せんとした、その事實も明確にこれらの裏面を物語るものである。

かくて最近東都の各大學專門校の卒業生が年々これらの方面へ進出しようとしてそれらの間には、激甚な競爭すら生ずるに至つて居る今春東都の某新聞社の採用試驗の應募者競爭率は高校などはどこにも及ばぬまで受驗難を生むに至り、高等の學術を受けし、學徒達の**新なる競爭場裡**を現出せしむるに至つた、而して早大あたりは勿論、古くから官吏のみをもつて、活躍場と考へてゐた官立帝大にまで、これらの志望者が激增し、進んでは同校に**新聞研究所**の設置すら見るに至つたわけである。これらはみな時代潮流の表れとも云へようが、過去に比較し現代新聞紙が大きな營利組織になつて來たこと進んでは現代新聞紙が**重要な社會的進出**をなした一部の表れと見ることが出來る。我等は新聞紙界のため慶賀に堪えないと同時に益々其の前途を祈つてゐるがこゝに諸子の聲援を望むは**吾等の新聞**吾が鄉土の報導機關たるあらゆる地方紙をして、地方民のこれに對する新しい理解のもとに、お互のためのものとして進んで開發せしめたいと思ふことである。唯大新聞社への偏集をさけ眞に言論尊重の意味に於いて單なる空論をさけ**實際的に我等**の新聞を發展せしめたい、勿論今日の地方紙には色々な多くの足らぬ點が澤山あるが、新聞と云ふその本質「社會から出て、又社會へもどる」と云ふ點から見て新聞紙にはどうしても人々の**社會的理解と愛護**が必要である。この意味に於て一致してあらゆる地方新聞の時想的發展を切望すると同理に斯道關係者の一層の研究を待つわけである。〔完〕

地方町村議當選者〔四〕

勿來町〔四日執行〕

一四三浮須豐三■九八安島久■八五赤津修一■七六小野七三郎■七一青天目信次郎■七〇横山太一■六六小松章■六四仲野新藏■六〇赤津庄兵衛■五八大平睦四郎■五三鈴木市藏■五一小野忠太■五〇荒川又助■四八小玉富八■三九石川文章■三九鈴木定助

× ×

醫師新報

昭和四年度上級學校入學者

括孤内は卒業回數を示す〔順不同〕

磐城中學校同窓生にして最近上級學校へ入學許可されしもの左の如くである。

東京高等師範學校 28片寄正義 28高野正男 28鷲和夫
第一高等學校 28小林智清 28木村榮
水戸高等學校 28高岡文夫 28澤一赳 27菅波勇夫
弘前高等學校 (醫)小泉初男 (醫)小越義孝 29高萩精玄
新潟高等學校 29中田三郎
浦和高等學校 28高野正男
愛知醫科大學豫科 28荒川滿 28荻野定夫
仙臺高等工業學校 29高橋廣 29大門俊雄 26吉野次美
米澤高等工業學校 29白土二郎
桐生高等工業學校 28松永格
海軍經理學校 27渡邊力男
東京高等商船學校 28鯨岡英俊
神戸高等商船學校 28鈴木邦與
東京外國語學校 28平澤勝男
第一臨時教員養成所 28木澤一郎 28酒井忍
東京商科大學教員養成所 28蛭田正義
早稻田大學高等師範部 26佐波古直貞 28佐竹貞得
福島師範學校二部 29増井義榮、市川善一、星山政吉、佐藤定翁、遠藤亥三男、高杉清壽、草野仁、赤津永、大越一二三、28松本孝一、花澤武夫、鈴木武雄、27佐藤金一、渡邊力男、山口市郎、永山嘉之、
豐島師範學校二部 29百島種一
青山師範學校二部 29永久保正雄 28松本孝一 26豊田庸一、永山嘉之、
茨城師範學校二部 29松本一郎
群馬師範學校二部 28岡崎英一
栃木師範學校二部 28齋藤正一
日本體育會體操學校 29桐谷哲雄
早稻田高等學院 29隈元圖博 28鈴木巖助 27岡田喜一
國學院大學豫科 28芦間直輝
東洋大學 29野崎理夫、椎名勇雄、27柳井幸太郎 27松浦誠
專修大學 24小西力藏 28永野孝夫
法政大學 29臼井四郎 27長岡義聰
慶應大學 28石坂恒雄
拓殖大學 四修 酒井藤吉
日本大學 29鈴木嘉勝 28内田正義 山野邊忠雄古田部一男
東京高等齒科醫學校 25長谷川叶
岩手醫學專門學校 26新妻司郎、松村享
千葉高等園藝學校 28高田彌内
東京醫學專門學校 28江尻保
日本大學齒科部 27千葉英一
鐵道教習所 29坂本一郎
物理學校 29赤津左武郎
明治大學 29草野信男、上遠野信夫
大東文化學院 29佐藤義雄
東北學院 29東條光雄

高等師範學校	三
高等學校	一〇
醫科大學豫科	二
高等工業學校	五
海軍經理學校	一
高等商船學校	二
外國語學校	一
臨時教員養成所	二
商大教員養成所	一
早大高等師範部	二
師範二部	二四
體操學校	一
早大高等學院	三
國學院大學豫科	一
東洋大學	四
專修大學	二
法政大學豫科	二
應慶大學豫科	一
拓殖大學豫科	二
日本大學	四
明治大學	二
齒科醫學校	二
醫學專門學校	三
高等園藝學校	一
鐵道教習所	一
物理學校	一
大東文化學院	一
東北學院	一
計	八四

（備考）右は該校に於て直接間接に知り得たる者のみにしてこの表に洩れたる者も相當ありといふ。

祝創刊五週年

諸橋守次
諸橋元三郎
中野康平
關内正一
平町二丁目 西村屋藥舖 長電話三番
東部電力株式會社 平營業所
平町 山崎合名會社 電話一〇番
平藝妓屋組合
石城郡銀行組合
三井吳服店 電話三八番
平町十五丁目 織田材木店 電話一一〇番
小田吉治
平町四丁目 關内藥局 電話四〇番
平町 河田梅吉
荒物陶器卸商 平町新川町 松崎長三郎 電話一七二番
平町五丁目 磐城建物株式會社 電話五一八番

平町田町大通り ライト寫眞館 電話八四七番
和洋紙文房具諸帳簿 平町一丁目 坂本紙店 電話一八番
平町南町 大森醫院 電話二五八番
平町一丁目 赤津人力車立場 電話二六三番
平町南町 平産婆看護婦學校 清野キヨ 電話三〇七番
平町四丁目 伊勢屋商店 阿部唯次郎 電話四五番
御料理 平二丁目 壽遊亭 電話八一二番
宴會洋式 平町田町 一の井 電町一六七番
果實委託問屋 平四丁目 袋屋商店 電話一一一番
郵便局長 湯本町 鯨岡潔
湯本町 入山採炭株式會社坑務所
平町月見町 佐藤鐵工所販賣部 電話三六二番
平大町 諸橋敬一郎 電話七一六番
平四丁目 小野藥店 小野常治 電話一四四番

平田町 市原醫院 市原三三男 電話一一四番
平五丁目 大竹酒店 大竹芳之介 電話二三二番
平町會議員 青沼鋒太郎
平八幡小路 渡邊内科醫院 渡邊久 電話一六一番
平町堂ノ前 磐城訓盲院 梅崎安由
平二丁目 みだいや
四倉銀行會社組合
平町會議員 佐藤岩次郎 平町鎌田町
平町二丁目 藤市 電話三〇五番
御料理 平南町 玉よし 電話四二六番
平町長 伏見彦衛
平町三丁目 大谷時計病院 電話十九番
小名濱町長 鈴木榮
御料理 平田町 千代本 電話八二一番
平町紺屋町 吉田眼科醫院 電話六八番
平三丁目 佐川洋服店 電話七二八番

裏東京に咲く花（二）

五味宵舟

二、私娼

女子が彼等の魅力を商品とする所には常に賣淫が存在する。

私娼は賣笑婦の內で、最も古い歴史を持つて居るものである。

我國では雄略天皇の時代に「采女」の出現を見たのが賣笑婦の始めであり、私娼の最初であると云はれて居る（大寶令には采女の制度は認められて居る）

其の後、天智天皇の末期には「遊行女婦」又は佐夫流兒」等の出現を見た。彼等は總べて上流の者と交際して智的な者が多かつたが、時代と共に其の地位も質も下落するに至つた。亦「傀儡女」と云つて、旅から遊へと水草の如く移遷し酒席に歌ひ、人形を廻はしたりする事に依つて淫を賣つた者もある。彼等は當時に於ては下層の賣笑婦として卑賤視されて居つたのである。

奈良朝の末期から、平安朝にかけて、著るしい私娼の發達を見、平安朝時代には上下共に文弱遊惰の風に染み、淫風は實に世を覆ふたと云ふ事は史上にも明白な事實である。

鳥羽天皇の時代には「白柏子」の出現を見た。彼等は白き水干に長袴を穿ち烏帽子を着け太刀を佩びて舞つた。清盛の寵愛せる「祇王」「祇女」の佛御前義經の愛妾「靜」は此の種の女であつた。此の白柏子は源平時代後に至つて廢絶したのである。

鎌倉時代に至り、公娼制の出現するや、私娼の取締りは嚴に次第に壓迫されて表面的には姿を消すに至つたが、之れが消滅を見るに至らず、足利時代には「立君」「湯女」等の密淫者の發生を見るに至つた。

江戸時代に於ては私娼を隱賣女と稱し、幕府の嚴禁するところであつたが、市中に散在する公娼が、吉原に集中された頃から此の種の女が市中に出現するに至つた、始めは品川、千住等に少々其の姿を見るのみであつたが、享保以後には市內各所に、置場屋と稱する隱賣屋が多く軒を並べるを見受けるに至つた。其の種類は多く鳥追、山猫、飯盛夜鷹、湯女、女藝者、女踊子等が至る所に蔓延し、神田柳原河岸の如きは、毎夜男の袖を引く女が市をなしたと云ふ事である。其の內でも最も有名なのは湯女で風呂屋と稱する湯屋渠業の置場所に抱へられて密かに賣淫を行つたもので神田の丹前風呂深川の十字風呂等が最も有名なものとして傳へられて居る。

現在の東京に於ても、私娼は其の種類、數の上からし、其の性質上確實な統計を得る事は非常に困難である。只檢査數と、半公認的な者による統計に依る他なく、其の他は、秘密な調査によつて大體を知るのみである。

先づ檢擧數の上から市內及郡部に於ける私娼の分布狀態を觀察して見様。

左に大正十四年に於ける警視廳の密賣淫檢擧成績表を示さう。

區名	密賣淫
麹町	三五件
神田	二〇
日本橋	一一
京橋	一一
芝	一二
麻布	二
赤坂	二
四谷	一三
牛込	一四
小石川	一八
本郷	二一
淺草	一二二
下谷	三四
本所	六九
深川	九
計	三九三件
龜戸	一、二八七
寺島	四三六
尾久	二八
瀧野川	一七
澁谷	一七
世田ヶ谷	一二
淀橋	一二
小松川	九
日暮里	九
王子	八
板橋	四
南千住	四
其ノ他	五二
計	一、八九五件
合計	二、二八八件

右統計に依れば市內より郡部に多く、市內で最も多いは淺草區の一二二件、本所區の六九件に麹町區の三五件、下谷區の三四件で最も少なきは麻布區、赤坂區の二件である。郡部に於ては龜戸の一、二八七件、寺島の四三六件が最も多く、尾久、瀧野川、澁谷、世田ヶ谷、淀橋等が之れに次ぐものである。

亦、警視廳保安課の調査に依れば、龜戸に四〇五軒玉の井に三五八軒の飼屋があつて、七〇〇人、五七七人の私娼が生活して居るとの事である。

右統計により市內及郡部に於ける私娼の大體の分布狀態を知る事が出來様。

之れから逐次、市內及郡部に蔓延する私娼に就いて述べて見様。

龜戸 玉の井には、龜戸遊園地組合、玉の井同業組合、親睦會等の組合組織に成る飼屋（私娼宿）が、軒燈兩側に低い作りの家が廣い所で二間巾位の道を狹んで、縱横に道を走らす一廓を構成して居る。日の暮れ方から十二時に至る人出の頃には、女の腐肉を漁り歩く漂客が、ゴミ〳〵込合つて、此の露路を滿たす程である。此處には陰慘な夜の世界（誰れか此の巷に一歩でも足を入れた者此の陰慘な氣を感じない者はあらうか）に人生のドン底に色奴の犧牲に供せられる幾多女性が存在して居るのである

彼等は何處より來り何處へ去るのか。

此處の私娼となるには公娼となる如き、小嚴びしい手續は必要とせない。大抵は潜り周旋屋（無免許の周旋屋）又は組合仲間の知人等の手を經て、殆んど誘拐同樣の手段を以て、伴はれ周旋料として問屋から女の身の代金とも云ふべきものを、二百圓から三百圓位を支拂はれるのである。

之れが彼女等を縛る唯一の鐵鎖となるのである、其して組合に於ては、彼女等の逃亡を監視するためにゴロの様な兇漢を備つて廓を巡回させて置く。

彼女等には年期等は無く其の日、其の日の稼ぎ高から借金を返濟して行くのであるが、七分三分か六分四分位の分配では、化粧代、衣裳代其の他日常の小遣ひにも常に不足をつげるので返濟は愚か借金は月日と共に嵩み行くばかりである。故に一度此の世界に墜ちたら最後、容易に再び明るい世界に出る事は出來るものではない。勿論彼女等を身受けする者とても殆んど無く、全く人肉の犧牲として彼等の別名の示す如き文字通りの地獄の生活を續けなければならないのである。

此處には別に通ひと云ふのがある大抵は人妻で夫に強制されて賣淫するのである、多くは私娼窟附近の怠漢の妻か情婦で、中には自から進んで小遣ひ取り等にやる者もある。彼等の分配方法は住み込み同業の分合制の所と場代制の所とあるのである。

其して、私娼一人に付き一日の客は三、四人から多きは拾人位で、一ヶ月の稼ぎ高は普通二百圓から二百五十圓位で、三百圓から四百圓位も稼ぐ者もあるとの事である。

亦彼女等の教育程度を見るに、本所基督教産業青年會調査部の玉の井の私娼に就いての調査に依れば、尋常六年修業以下の學力の者は全私娼の九割を占め、其の中で不就學者は、其の半數を占めて居る狀態から見ても教育程度は實に低いものである。然し中には女子大學、專門學校等の半途退學者等も見受けらる。

亦、彼等の前身を見るに（同調査に依る）飲食店女中女工、無職人妻等が最も多く全私娼の七割を占め、子守、女人夫、女事務員、藝人、女學生等が之れに次ぐものであるが、中には女教員、救世軍士官等の居るのは實に皮肉である。

次に彼女等の原因を調査して見様（同調査による）家庭の事情、失業の結果が最も多く、誘カイ手段に依る者、離婚者、自棄的な者等が之れに次ぎ、中には病的な者もあり、美裝を美みてとか、明るい氣分が好きな爲めとか云ふ輕薄な考へから轉落した者もあるが、研究的に入つたと云ふ御念入りな者から、男性を征服せんとして入つた等と云ふが如き、大それた者迄でもある。此の如き女性に會ふた男性こそ、眞に迷惑な事であらう。（此の項續く）

再び肺結核の豫防に就て（拾貳）

湯本町　片岡鎌三郎

吾人は生活の安定を最大要訣とす。

從來述べ來つた事柄を、通觀すれば我々は常に身體の强固法を計り、抵抗を强め發病を防ぎ、常に結核菌竈を抑壓せねばならぬ。

結核菌の傳染は、小兒期殊に一二歳頃、ハイ歩く頃が尤も多い、而も日本文明人大多數は保菌者である。初め感染門は肺の氣管の分枝點、肺門腺である、此の肺門淋巴腺に巣をくい、漸く根城を造るのである、其の處には免疫を作りつゝあるので、將來其人が著い身心の疲勞とか、急性熱性病とか、別して麻疹百日咳は尤も危機を作るのである、一度其の巣窟をつき破つたら最後、蜂の巣を突き破つたと同じで、忽ち四方八面に菌族が蔓延する樣は、丁度一時に大恐慌を惹起するのである、而して尤も抵抗の弱き部分に幾個となく無數に巣をくうのである。即ち猛然として、發病狀態に轉化するのである、全身中尤も弱き處を擇び、病源を造營する其處には僅かつゝでも、炎症を起し夫れが續ける爲め、全身的には輕い發熱、ルイ瘦蒼白疲勞狀態となる、多くの場合夫れは肺炎カタル、肋膜腹膜炎である、であるから肺炎カタールは、已に末である肺門腺結核は中々診斷が出來ぬ。打診聽診レントゲン皆なだめ夫れだから吾人は肺門腺結核の時に其の結核菌窩を破らぬ様、寧ろ保護して抑制して發病蜂起を防ぎ、發病せしめぬ様平素抵抗力を强くして置かねばならぬ。

之れが肺病豫防の第一義である、若し已に發病狀態とならば、一大決心大自覺專念療養に努力して、病菌の鎮壓は勿論、一面身體の强固法を計り、抵抗力の助長に努め自然治療に導く、夫れには先決問題として精神的環境的慰安、含餌藥品日光浴等、眞に學問的眞理的に療養せねばならぬ、徒らに迷ふて彼の方此方其の法と、轉々懊惱、遂に何物も得ず殘る處亡骸のみ、けれども確かに其の初めに當り早くも猛然として大自然に歸り、己が進む可き道を自覺し不撓不屈眞理をつかまい得れば、其處にはたしかに光明神が居るに違ひない然かも近しと雖見る能はず身命を惜まず一念凝て初めて見ることが出來る、其歡喜や知る可きのみけれども夫れは萬人皆な得て望むことは出來ぬ、普遍的には其第一歩として生活の安全を要望しなくてはならぬ、前にも云つた年收三千圓の病人と千圓以下の收入者とは死亡率が著しき大差がある富者の死亡率は非常に少いのは、實際雄辯に統計が示してあるが、前述の精神生活宗教生活者は不知不識大自然的安住を得てるから特別だ、長壽の秘訣も亦其處にある之れは天惠である。天は偏頗はない、普遍的恩惠である。

吾人は深く思はねばならぬ徒らに煩悶懊悩自ら身を食ふは餘りに拙劣であるが、世の中は理屈通りにも中々行かぬ、吾々は社會的に觀て、吾々の生活程度は奈邊にあるやを、考家する必要がある。

× × +

新川柳

平町梅の湯樓上にて例會

宿題『帶』佐瀨劍珍坊氏選

角帶も器用に慶應出の主人　新平
帶チヤンと〆めて湯治場引上げる　十寸叟
マネキンの自分で買へぬ帶を締め　新平
連帶がお通夜の席で愚痴を云ひ　文狂
夏帶の柄ウエンドーに夜の町　岸柳
解きなやむ帶に刑事の眼が光り　文狂
食卓へバンドの穴をさしかへる　十寸叟
帶にされ襷にされて嫁き後れ　十寸叟
淺草ですられましたの帶を撫で　文狂
憎い事言ひ〳〵番に帶を解き　同
再婚の帶に乳房が邪魔になり　新平
（人）落籍ときまつたらしい帶の柄　文狂
（地）帶自慢いつもの帶で今日も來る　新平
（天）兵古帶を前に結んで用がなし　狂水

選者吟
丸帶の二度程〆めただけの愚痴
角帶の寸がきまらぬ中つ腹

席題『唄』佐瀨劍珍坊氏選

古臭い唄でカアサン子を寢かし　東天紅
艶歌師の唄へ女房湯か遲れ　新平
砂金採りおもひ出しては國の唄　文狂
寄宿舍の雨望郷の唄となり　新平
唇をなめると何時も同じ唄　東天紅
秀逸　やかましい巡査人夫の唄になり　文狂
同　醉どれの同なし唄に女給あき　東天紅

選者吟
應援歌どの文句でも節が合ひ

X光線科
與田[illegible]醫院
平南町
電話一二九番

米雜穀味噌醬油商
山野邊米店
平町仲町（平稅務署前）
電話（呼出）七三四番

祝創刊五週年

比佐榮一

磐城中學校交誼會

平公私立學校長懇話會

平町二（電話一二八番）
坂田金物店

好間行
平町二丁目谷口通り
三井自動車部
電話呼出八番

平町大工町
多田井質店

㊣通
平運輸株式會社

割烹
平町田町
末廣
電話四二一番

平町旅館業組合

平町料理屋組合

植田町
森合芳男

植田町
前田醫院
電話一二四番

小名濱町本町
吳服太物
洋品荒物 商
村上淨代二
電話六拾四番

平久保町
永山和平

平町新川町
田中宣治

湯本町
溫泉旅館
古瀧

湯本町
湯本信用無盡株式會社
電話四七番

湯本町
衆議院議員
比佐昌平

湯本溫泉旅館
山形屋
鈴木康平
電話四番

平二丁目
荒物雜貨商
大一屋商店
電話十三番

平町南町
御料理蒲燒
大和家
電話十四番

平町紺屋町
原齒科醫院
電話三一番

四倉町本町
菅波齒科醫院
菅波勇

平町才槌小路
銘酒
三國一
吉田五平
電話三五二番

平四丁目
佐藤齒科醫院
佐藤武之
電話五〇八番

加藤丈夫

[illegible]

山野邊東次郎

永山勇吉

理化學研究所製
吸入用酸素・酸素吸入器
優良ナル理研ノ酸素ノ御用意チ
平 體溫器 寒暖計
關內藥局
電話四〇番